

道草だより

兵庫医科大学保健管理センター
職員相談室 2018.12月号

教職員の皆さま、師走を迎えお忙しいことと思います。お元気でお過ごしでしょうか。今年最後の道草だよりは、心が軟らかくなるような『詩』をお届けしたいと思います。皆さま、来年も良い年でありますようにと心から願っております。

なんとなく・青空 工藤直子作

気がつくとなりに

青空が腰をおろしていた

「いい天気ですね」と声をかけた

青空は「いい匂いがする

「いい眺めですね」と答えて

青空はあたりを見まわす

「どうしてここへきたの？」

青空は「ゆっくり返事した

どうしてか」というと「なんとなく」

「なぜ『なんとなく』なの？」

「ははは それには返事ができない

『なんとなく』は最終返事ですから」

青空は「青空のように爽やかに笑い 腰を上げた

気がつくともうえに

青空が「ひろがっていた

わたしは「嬉しかった

なんとなく

なんとなく



おらかなことば

「なんとなく」という言葉は、少し割り切れないもよもよ感も残ります。でも、この詩の「なんとなく」は、ちょっと違ったニュアンスが感じられませんか。この詩では、「わたし」と「青空」が対話をしています。「わたし」が「どうしてここへきたの？」と問うと、青空は「なんとなく」と答えます。このすべてを含んだような「なんとなく」は、とてもおらかな感じがします。流れるように「わたし」となりに腰をおろしてきた青空は最後に、「『なんとなく』は最終的返事ですから」と笑って、いつのまにか、「わたし」の真上に広々と広がっています。

仕事の中では、明快な答えや、エビデンスはとても重要なものと言えますが、いつの間にか日々の生活の中でも、物事について明快な結果を求めてしまいがちになってはいないでしょうか。〈○〉や〈×〉とも違う〈△〉という形のキャパシティの広さや、〈グレー〉という微妙なトーンも確かに存在します。一見曖昧に感じられるようなものの中に、実はとても魅力的なものもあるようです。仕事から離れたら、この「なんとなく」の感じを味わえるような時があると素敵ですね。

引用文献：日本語味わう名詩入門18工藤直子荻原昌好編 山本晴義著

開室日：月曜と金曜の週2日（9:00-18:00） 相談室の場所：9号館5階

TEL/FAX:0798-45-6121(内線6121) IP(86601)

メールアドレス:k-harada@hyo-med.ac.jp

相談員 原田 久仁美

